

北海道浮魚ニュース

平成 24(2012)年度 19 号

2012 年 10 月 5 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎道東太平洋サンマ南下期調査結果

漁獲尾数は昨年よりも少なく、魚体は大型魚主体

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。今回の調査は、道東太平洋海域へのサンマの南下状況を把握することを目的に実施しました。台風の影響で調査は 4 地点でしかできませんでした。

調査期間：2012 年 9 月 26 日～10 月 4 日

調査海域と調査点 (図 1)：道東太平洋 (42° 03'N～42° 40'N, 144° 03'E～145° 19'E) の 4 調査点 (漁獲調査は 3 点)。

調査方法：CTD による海洋観測及び 9 種類の目合 (22,25,29,37,48,55,63,72,82mm) の流し網を用いた漁獲試験を実施しました。

1. 表面水温(図 1, 表 1)

各調査点の表面水温は 16.8～20.4℃の範囲でした。東側の St. 1 と西側の St. 13 では 20℃前後の高い値でした。釧路沖の St. 15 では 16.8℃であり、サンマの分布に好適な 15℃前後に最も近い水温域でした。

2. 漁獲尾数と CPUE(図 1, 表 1, 表 2)

流し網調査の結果、サンマの総漁獲尾数は 191 尾でした。また、CPUE* (流し網 1 反あたりの漁獲尾数) は 4.5 尾でした。これを 2001 年以降の同調査結果と比較すると、漁獲尾数、CPUE とともに低位を示す値でした。サンマの分布状況としては、東側 (St. 1) の表面水温 19.3℃の海域に最も多く分布し、西側ほど少ない傾向にありました。

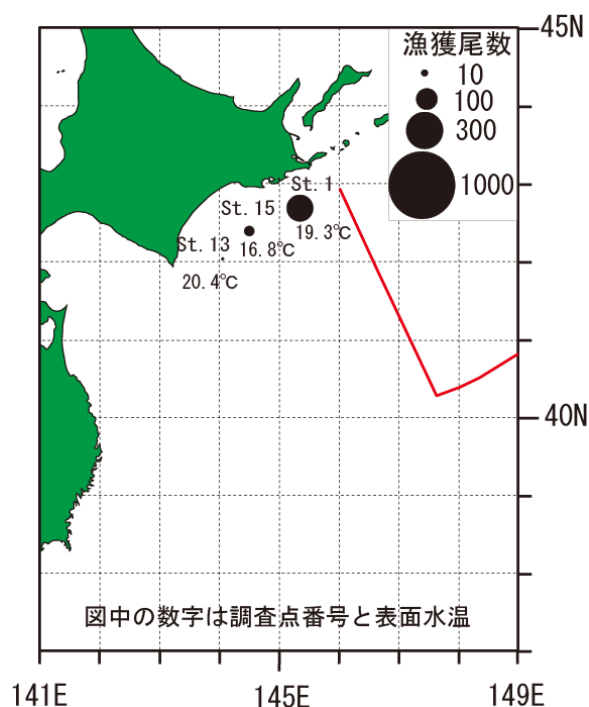


図 1 2012 年サンマ南下期調査結果

3. 体長組成(図 2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、16～34cm 台でした。漁獲尾数の多かった St. 1 では、大型魚が主体でした。釧路沖ではジャミが主体となっていました。調査点全体の合計では全漁獲尾数に対して大型魚の割合が多く、82%を占めていました。中小型魚、ジャミの割合は 17%であり、昨年 (66%) よりも低い値でした。

*目合 29,37,48mm の漁獲尾数から算出。1 反は 30 間切りで換算。

表 1 2012 年サンマ南下期調査結果概要

※目合22.25mm各1反(30間切り換算)、29.37.48mm各4反(30間切り換算)、55mm2反(30間切り換算)

調査日	位置		水温(°C)			サンマ漁獲尾数									
	北緯	東経	0m	50m	100m	目合22mm	25mm	29mm	37mm	48mm	55mm	63mm	72mm	合計	
St. (揚網日)															
1	9月26日	42-40	145-19	19.3	6.2	5.6			11	140	3			154	
13	10月2日	42-03	144-03	20.4	7.6	5.8					1			1	
14	10月3日	42-30	144-00	19.5	5.8	3.2									
15	10月3日	42-40	144-29	16.8	13.4	8.9	7	12	6	11				36	
							合計	7	12	17	151	4	0	0	191

表 2 サンマ南下期調査における漁獲尾数とCPU Eの経年変化

	2001年	2002年	2003年*	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
漁獲尾数(尾)	8,124	2,168	2,425	168	1,851	9,005	316	200	6,508	2,157	1,678	191
CPUE(尾/反)	112.2	40.8	185.3	2.0	21.3	124.2	3.5	2.9	58.0	22.0	23.8	4.5
漁獲調査点数	6	4	1	7	8	6	7	5	8	7	5	5

*2003年は荒天、地震等により、漁獲調査点は1点のみであったため参考値。

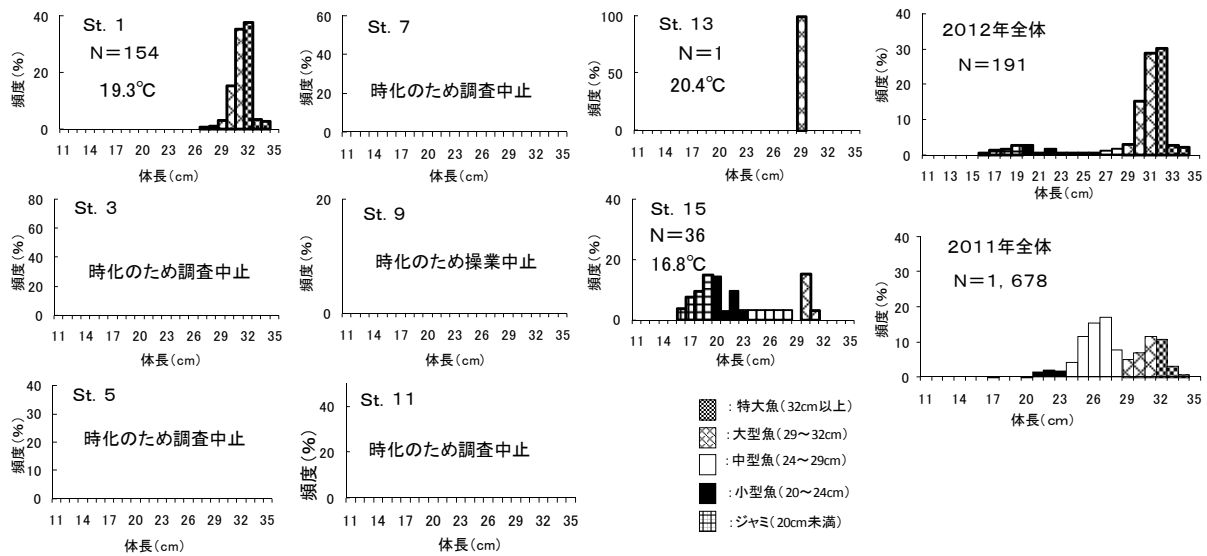


図 2 2012 年サンマ南下期調査におけるサンマの体長組成(Nは漁獲尾数, 温度は表面水温)

4. まとめ

この時期のサンマは、親潮水(冷水)の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。今回も漁獲調査点は、例年好漁場が形成される親潮水と北上暖水の潮境付近に配置しました。しかし、台風(17号、18号)の襲来による時化により、沿岸域でしか調査ができませんでした。今年の道東沿岸の表面水温は高く、この調査結果でも昨年を2°Cほど上回っていました。また、今年の道東沖でのサンマの漁場形成は、例年よりも2ヶ月ほど遅れており、この調査で流し網調査を開始した26日にやっと道東海域での漁場形成がみられました。例年であれば、十勝海域にも漁場の形成が見られますが、まだ今年は見られていません。

未だ主分布域は釧路海域にあるようです。

(文責：釧路水産試験場 調査研究部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)